

平成29年度におけるチャネルキャットフィッシュの捕獲状況

臼杵 崇広

1. 目的

近年、県内で捕獲事例が増加しているチャネルキャットフィッシュの対策を講じるうえで、その捕獲情報を取りまとめる必要がある。

2. 方法

平成29年度に、水産試験場に寄せられた本種の捕獲情報を地図上に記載した(図1)。

また、生息量の指標として延縄の針100本あたりの本種の捕獲尾数(以下、捕獲尾数という。)を漁獲日誌により①南湖、②黒津、③関津、④大石淀の4区域で算出した。

さらに、瀬田川においては釣りによる捕獲状況を上記②、④の区域で昨年度と比較した。

さらに、今後の駆除対策に活用するために、これまでの捕獲情報を資料編(資料4)に記載した。

3. 結果

平成29年度には北湖(琵琶湖大橋より北の琵琶湖。)で2尾、南湖(本報告では琵琶湖大橋から瀬田川洗堰までの間とする。)では10尾、瀬田川(本報告では、瀬田川洗堰下流の県境までの瀬田川とする。)では25尾が捕獲された(図2)。南湖と瀬田川では捕獲尾数が昨年度より増加した。一方、北湖では捕獲尾数は昨年度より減少したが、沖曳網で捕獲されたと思われる幼魚1尾がスジエビの蓄養いけすで確認された。琵琶湖での繁殖が危惧されることから、さらに本種の動態に関する情報収集に努めるとともに、効率的な駆除手法の開発に取り組む必要がある。

4~8月の本種の延縄による捕獲尾数は①0→0.02尾(H28→H29)、②0→1.25尾(同)、③0.20→0.22尾(同)、④0.20尾→出漁なし(同)であり、②黒津では捕獲尾数は大きく増加した(図3)。

釣りによる7,8月の捕獲調査では、1人1時間当たりの捕獲尾数は②0.15→0.42(H28→H29)、④0.06→0.69(同)といずれも大幅に増加した。②では前年度に延縄の出漁がなく比較はできないものの、釣りでは増加していること、④では延縄、釣りともに増加していることから、瀬田川では増加傾向にあるものと考えられる。今後瀬田川では生息量の指標として、延縄に加えて、釣りによる捕獲データを蓄積し、動向を追跡していく必要がある。



図1 チャネルキャットフィッシュの捕獲地点

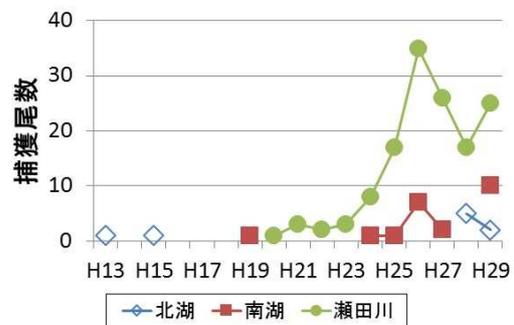


図2 チャネルキャットフィッシュの捕獲状況